

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	岩手県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	遠野市立遠野中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	3	3	1	11	23
生徒数	131	118	115	2	366	

研究の概要

1 研究主題

一人一人が意欲的に課題に取り組むための指導方法はどうあればよいか。
 ~ 基礎・基本の定着を図る効果的な指導法の工夫を通して ~

2 研究の内容と方法

(1) 実施学年・教科

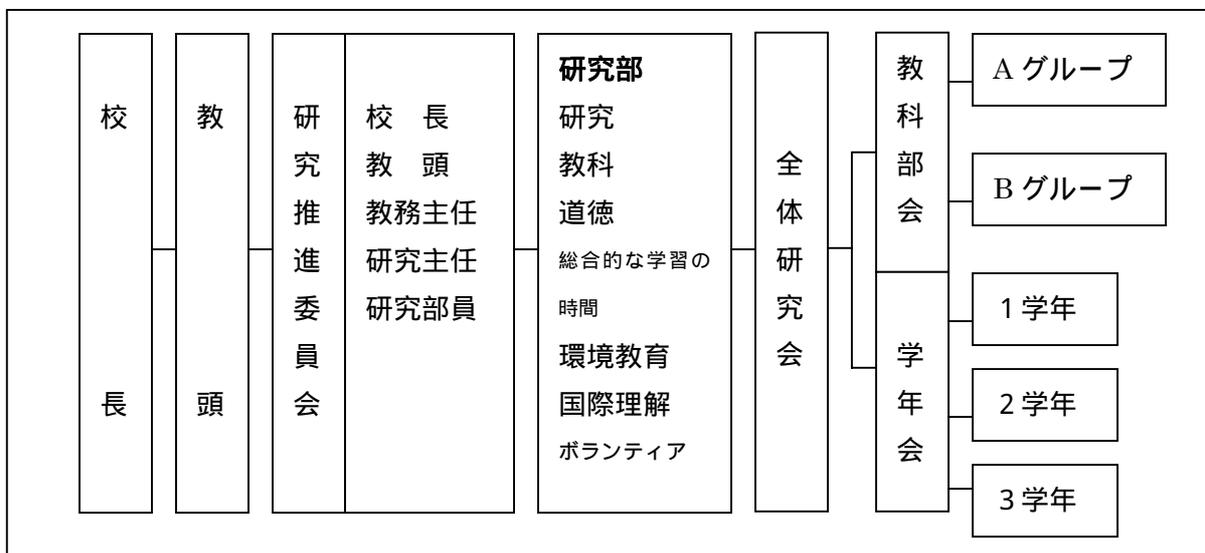
実施学年 全学年
 実施教科 全教科
 数学と英語を核として研究を推進していくが、中学校における基礎・基本は、全学年全教科の学習の工夫が不可欠であると考え、全教科で取り組むこととした。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	テーマ 一人一人が意欲的に課題に取り組むための指導方法はどうあればよいか。 ~ 基礎・基本の定着を図る効果的な指導法の工夫を通して ~ 研究の見通し(仮説)
	各教科の授業において、本時の課題(基礎・基本)を明確に生徒に示し、課題解決に必要な基礎・基本の定着を図れば、生徒は意欲的に学習に取り組むであろう。 研究の内容・方法 (1) 生徒の実態把握と考察 (2) 学習規律の確立 (3) 指導方法・指導体制の工夫改善 (4) 指導と評価の一体化 (5) 授業公開や研究会を通して、保護者や地域からの理解に努める。

平成 16 年 度	<p>テーマ</p> <p>一人一人が意欲的に課題に取り組むための指導方法はどうあればよいか。 ～ 基礎・基本の定着を図る効果的な指導法の工夫を通して ～</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>各教科の授業において、本時の課題（基礎・基本）を明確に生徒に示し、課題解決に必要な基礎・基本の定着を図れば、生徒は意欲的に学習に取り組むであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 生徒の実態把握と考察</p> <p>(2) 学習規律の確立</p> <p>(3) 学習意欲を高め、基礎・基本の定着を図るための指導方法・指導体制の工夫と改善</p> <p>(4) 指導と評価の一体化</p> <p>(5) 授業公開や研究会を通して、保護者や地域からの理解に努める。</p> <p>(6) 小・中学校の連携を図る</p>
--------------------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究成果

(1) 指導法の形態の工夫

数学で少人数指導とTT指導を、英語でTT指導を実施してきた。特に第3学年の数

学では、習熟度指導を取り入れ研究を進めてきた。コース編成については、定期テストの結果や本人の希望をもとにコース分けをし、基礎・基本の充実を図るため、基礎コースを7名程度におさえるように設定した。こうしたコース編成により、生徒からは、分からないところが、聞きやすくなったという声が聞かれ、学習意欲の向上や基礎・基本の定着につながったと考える。

TT指導については、単に教室に二人の先生がいるのではなく、1人が説明しているときは、机間指導をしながら、遅れがちな生徒の指導をしたり、学級を半分にして基礎・基本のドリルなどに努めた。この結果、授業に対する集中力が増すとともに生徒の発表回数が増えるなどした。

特に英語の授業では、新出文型などを導入する際に、状況設定を行い、適切な状況の中で文型を導入することができ、生徒から分かりやすいという声が聞かれた。

(2) 学習定着度状況調査（岩手県教育委員会実施の調査）の分析から

〔学習定着度状況調査の分析 第2学年数学〕

平成15年度の学習定着度状況調査を平成14年度のものと比較すると、

- ・ 簡単な正負の四則計算 + 2%
- ・ 簡単な単項式どうしの乗法 + 11%
- ・ 多項式と数の除法 + 11%
- ・ 意向の意味がわかり式を変形 + 8%
- ・ 連立方程式の立式 - 11%
- ・ 比例の関係を式で表す - 8%
- ・ 平面図形の運動でできる立体の形 15% である。

一般的に、計算など基礎的基本的な項目は昨年度に比べて定着したところもあるが、図形など抽象概念は定着が低い。

〔学習定着度状況調査の分析 第2学年英語〕

平成15年度の学習定着度状況調査を平成14年度のものと比較すると、

- ・ 英語の伝言を読み取る + 3%
- ・ 日記の要点を読み取る + 12%
- ・ 過去進行形の英作文 + 5%
- ・ 日記の日付を答える - 26% である。

話す・聞くなどの音声面の問題は、比較的良くできていたが、読む・書くなどの文字を解する問題は低い結果となっている。今後、フォニックスなどを導入し、文字と音声の関係をつかませるよう指導を強化したい。

(3) 自由参観日の実施

昨年度は年数回の実施だった授業参観日を、今年度は毎月実施している。学校の教育活動への理解を得るためには、保護者の方々が、授業を参観できる機会を増やし、率直な意見をいただくことが大切だと考えたからである。

(4) 拡大授業参観日

11月には、拡大授業参観日を開催し、これまでの学力向上の取り組みを全学級・全教科授業を公開し、保護者はもとより、近隣の小学校・中学校・高等学校の先生方から授業研究会の中で様々な意見をいただいた。また、「良い授業では」というタイトルでパネルディスカッションを実施した。

(5) 小学校との交流

本校学区の2つの小学校も学力向上フロンティアスクールに指定されており、授業参観や研究会の交流などを行った。

2 今後の課題

(1) 学力向上のために具体的にどのように授業改善をするのか、職員の共通理解を図る必要がある。

(2) 生徒の学力の実態を細やかに把握し、つまづきを発見した場合は、早期に回復指導をする必要がある。

(3) 学力向上をするために、今後一層授業規律を徹底させる必要がある。

(4) 少人数指導の際、学習内容や進度に著しく違いが出ないように指導する必要がある。

(5) 「努力を要する」状況の生徒に、「おおむね満足できる」状況になるように具体的に支援するとともに、「おおむね満足できる」状況の生徒は「十分満足できる」状況に高まるように手立てを講じる必要がある。

(6) 効果的な指導形態について研究を深める必要がある。

学力等把握のための学校としての取組

学力の状況について把握するもの

(1) 期テスト 1学期(中間・期末) 2学期(中間・期末) 3学期(期末)

(2) CRT 検査(年1回)

(3) 学習定着度状況調査(年1回)

学習意欲等について把握するもの

AAI 検査

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

(1) 研究会、説明会等の開催実施

(2) 研究成果の普及のためのHP作成、パンフレット作成等については、来年度予定

(3) フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動等

県学力向上推進会議(5月・1月) フロンティアティーチャー研修会(9月)
地区向上推進会議(6月・1月) 学校での学力向上推進会議(7月・9月・11月・2月)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からからの新規校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無